

予 算 要 求 資 料

令和 7 年度 3 月 補正 予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工 鉱業 振興費

事業名 【新】若手経営者・後継者イノベーション支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 産業イノベーション推進課 電話番号：058-272-1111(内3750)

スタートアップ推進係 E-mail：c11352@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 13,069 千円 (現計予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	13,069	6,525	0	0	0	0	0	0	6,544
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

県では令和5年度に「ぎふスタートアップ支援コンソーシアム」を設立し、産学金官が連携してスタートアップの創出・成長の支援を行っている。

コンソーシアムで支援を行っているスタートアップについては、年々増加傾向にあるものの、会員の内のスタートアップの割合は低い。

他方、県内では既存企業が自社の経営資源を活用し、新事業展開や新商品の開発といった第二創業を行う中で、先進的な事業の新会社を設立する事例も出てきている。

そこで、新たな事業への挑戦意欲を持つ若手経営者や、先代から事業を承継し、新分野進出に意欲のある後継者の支援を実施することで、支援した経営者らが第二創業や新たなスタートアップを創出することを目指す。

(2) 事業内容

①県内に潜在する若手経営者・後継者を「見える化」するため、県及びコンソーシアムがアクセスできる新規事業に挑戦する若手経営者・後継者のコミュニティ化

②ロールモデルとなり得る若手経営者・後継者の発掘、そのための新規事業のビジネスプラン策定のための支援

③ロールモデルとなり得る若手経営者・後継者の県内横展開、若手経営者・後継者によるイノベーション創出に向けた機運醸成

(3) 県負担・補助率の考え方

新たな事業への挑戦意欲を持つ若手経営者や、先代から事業を承継し、新分野進出に意欲のある後継者の支援を行い、先進的な事業を行う新会社の設立や、新規事業の創出への支援を行うことで、県経済の振興につながるものであるため、県負担は妥当。

(4) 類似事業の有無

なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	32	評価委員謝金
旅費	30	評価委員の費用弁償、業務旅費
需用費	5	消耗品費(4千円)、会議費(1千円)
役員費	5	書類等郵送用の通信運搬費
委託料	12,952	事業委託料
使用料及び賃借料	45	プロポーザル評価会議用の会場使用料
合計	13,069	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略3-(2)-③県内産業の活力の強化と新事業展開の推進
岐阜県経済・雇用再生戦略1-(3)イノベーションを牽引スタートアップの創出支援の強化

(2) 国・他県の状況

中小企業庁「アトツギ甲子園」にて、後継者による新規事業支援を実施
中部経済産業局「中部地域における後継者ネットワーク構築促進事業」にて、新たな視点や革新的なアイデアを持つ若手経営者を支援

(3) 後年度の財政負担

県経済の振興につながるものであり、県負担で実施

(4) 事業主体及びその妥当性

県内のスタートアップ・エコシステム形成の推進は、産業の活性化、起業の促進など地域の活性化を促進するものであり、当該経費を支出することは妥当。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

令和10年度までに、新しい事業領域に挑戦する若手経営者等の支援を行うことで10件のロールモデル創出を目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R6)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
①新事業領域に挑戦する経営者数	0	-	-	5	10	

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和5年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p>
令和6年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和7年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

- ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)
3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない

(評価)

- ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)
3 : 期待以上の成果あり
2 : 期待どおりの成果あり
1 : 期待どおりの成果が得られていない
0 : ほとんど成果が得られていない

(評価)

- ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)
2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている

(評価)

(今後の課題)

- ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項

(次年度の方向性)

- ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか